

トルコ

Republic of Turkey

	2014年	2015年	2016年
①人口:7,981万人(2016年)			
②面積:78万3,562km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP:1万807米ドル (2016年)			
④実質GDP成長率(%)	5.2	6.1	2.9
⑤消費者物価上昇率(%)	8.17	8.81	8.53
⑥失業率(%)	9.9	10.3	10.9
⑦貿易収支(100万米ドル)	△63,597	△48,114	△40,842
⑧経常収支(100万米ドル)	△43,597	△32,118	△32,615
⑨外貨準備高(グロス) (100万米ドル)	127,308	110,533	106,111
⑩対外債務残高(グロス) (100万米ドル)	401,882	396,050	404,182
⑪為替レート(1米ドルにつき、 トルコ・リラ、期中平均)	2.189	2.720	3.020

〔注〕⑦:国際収支ベース(財のみ)。⑦⑧:2016年は暫定値

〔出所〕①~⑥:トルコ統計機構(TUIK)、⑦~⑨:トルコ中央銀行、⑩:トルコ財務省、⑪:International Financial Statistics, IMF(2017年5月号)

2016年のトルコの実質GDP成長率は2.9%増と前年の6.1%から大きく鈍化した。これは、15年から続く選挙と「イスラム国」を自称する過激派組織(ISIL)、クルディスタン労働者党(PKK)によるテロ、クーデタ未遂事件等の治安悪化、シリア問題といった地政学リスクを主因とするものである。また、貿易赤字は縮小したものの、観光収入や対内直接投資の減少により、経常赤字は前年より拡大し326億1,500万ドルになった。

### ■ 治安の悪化と成長の減速

トルコ政府の経済構造改革は、政治が優先されていることもあり、2013年以降、実質的な進展がみられない。16年のトルコは、5月にダウトオウル首相の退陣、7月にクーデタ未遂事件など政局の混乱が続いただけでなく、ISIL、PKKのテロが頻発し、社会不安が高まった。エルドアン大統領は、これら社会不安の拡大を理由に、17年4月に実施した憲法改正のための国民投票で悲願であった大統領に実権を持たせる制度の導入に道筋をつけた。同大統領は、改憲を受け5月2日に与党・公正発展党(AKP)に復帰、同21日の臨時党大会で党首に選出された。17年は、独裁傾向が強まる懸念はあるものの、内政の安定により、経済構造改革の再開につながる事が期待されている。

2016年の実質GDP成長率は、前年比2.9%と、15年の6.1%を下回ったが、クーデタ未遂などの影響は最小限に抑えられ、市場予測の2%前後は上回った。他方、1人当たりGDPは通貨トルコ・リラ安の影響で、15年の1万1,014ドルから1万807ドルに低下した。

表1 トルコの需要項目別実質GDP成長率

(単位:%)

	2015年	2016年				2017年	
		Q1	Q2	Q3	Q4		
実質GDP成長率	6.1	2.9	4.5	5.3	△1.3	3.5	5.0
民間最終消費支出	5.5	2.3	0.9	4.1	△1.7	5.7	5.1
政府最終消費支出	4.1	7.3	10.5	14.4	5.6	0.8	9.4
国内総固定資本形成	9.2	3.0	6.6	3.8	0.5	2.0	2.2
財貨・サービスの輸出	4.2	△2.0	1.4	△1.9	△9.3	2.3	10.6
財貨・サービスの輸入	1.7	3.9	2.7	7.2	2.1	3.3	0.8

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比。

〔出所〕トルコ統計機構(TUIK)

需要項目別にみると、内需が成長の牽引力となっており、GDP全体の60.6%を占める個人消費(民間最終消費支出)が前年比2.3%増加し、経済を牽引した。特に第4四半期の伸びが前年同期比5.7%増と大きく、7年ぶりのマイナス成長となった第3四半期からV字回復を示した背景には、11月末の自動車の特別消費税(SCT)率引き上げに伴う駆け込み需要がある。次いで、政府最終支出が前年比7.3%増、総固定資本形成が3.0%増と続く。生産部門別では製造業および建設の成長への寄与が高く、他方、治安問題の影響が大きい観光部門を含むサービス業はマイナスであった。

インフレの高進も続き、消費者物価上昇率は、2014年来の食品価格の上昇に加え、トルコ・リラの減価、原油価格の上昇もあり、政府目標の7.5%を上回る8.5%となった。トルコ中銀は実際の上限金利とされる最終時間帯貸出金利を引上げ、引締めを強化しているが、月次でみた消費者物価指数は17年2月から2ケタの上昇が続いている。

2016年は、格付け機関のS&P、ムーディーズ、フィッチが相次いでトルコの格付けを投資適格から引き下げたが、17年には引下げの動きは消失し、市場では、改憲が政局の安定につながるとの期待もある。一方でトルコの「国民投票による独裁制」の成立を忌避する声もあり、エルドアン新体制がいかに国際的な信認を回復できるかが注目される。

2016年の輸出は前年比0.9%減の1,425億3,325万ドル、輸入はエネルギー、鉱物など商品価格下落を理由に、4.2%減の1,986億1,746万ドルとなり、貿易赤字は73億

表 2 トルコの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2015 年		2016 年			2015 年		2016 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
自動車・同部品	17,463	19,802	13.9	13.4	機械機器	25,587	27,296	13.7	6.7
機械機器	12,333	12,340	8.7	0.1	鉱物性燃料	37,843	27,169	13.7	△28.2
貴金属類	11,264	12,177	8.5	8.1	電気機器	17,638	20,135	10.1	14.6
ニット衣類	8,926	8,850	6.2	△0.9	自動車・同部品	17,544	17,841	9.0	1.7
電気機器	8,278	7,828	5.5	△5.4	鉄鋼	14,775	12,575	6.3	△14.9
鉄鋼	6,556	6,180	4.3	△5.7	プラスチック製品	12,268	11,628	5.9	△5.2
ニットを除く衣類	5,916	5,925	4.2	0.2	貴金属類	4,183	7,204	3.6	72.2
プラスチック製品	5,358	5,026	3.5	△6.2	光学・精密機器	4,621	4,632	2.3	0.2
鉄鋼製品	5,465	4,966	3.5	△9.1	有機化学品	4,716	4,360	2.2	△7.6
食用の果実・ナット	4,355	3,873	2.7	△11.1	航空機・同部品	3,830	4,310	2.2	12.5
鉱物性燃料	4,518	3,211	2.3	△28.9	医薬品	4,296	4,217	2.1	△1.9
家具	2,753	2,658	1.9	△3.4	鉄鋼製品	2,742	2,983	1.5	8.8
アルミニウム・同製品	2,370	2,237	1.6	△5.6	アルミニウム・同製品	3,334	2,866	1.4	△14.0
ゴム・同製品	2,165	2,202	1.5	1.7	銅・同製品	2,985	2,724	1.4	△8.8
塩・硫黄・土石類・プラスター・石灰・セメント	2,253	2,174	1.5	△3.5	紙・板紙・製紙用パルプ	2,684	2,685	1.4	0.0
中古の衣類・紡織用繊維の中古物品	1,899	1,954	1.4	2.9	綿および綿織物	2,265	2,297	1.2	1.4
じゅうたん・床用敷物	2,009	1,913	1.3	△4.8	ゴム・同製品	2,525	2,561	1.3	1.4
野菜・果実・ナット・その他植物の部分の調整品	2,187	1,848	1.3	△15.5	人造繊維の長繊維	2,097	2,133	1.1	1.8
合計(その他含む)	143,839	142,533	100.0	△0.9	合計(その他含む)	207,234	198,617	100.0	△4.2

[注] 2016 年は暫定値。  
[出所] トルコ統計機構(TUIK)

1,128 万ドル減少し、560 億 8,421 万ドルに改善した。

輸出を品目別に見ると、最大品目の自動車・同部品が前年比 13.4%増と好調であった。次いで、金を中心とした貴金属類が 8.1%増と続く。一方で、減少額が大きかった品目をみると、原油価格の下落により、鉱物性燃料が 28.9%減と最も減少、次いで鉄鋼製品が 9.1%減、食用の果実・ナットが 11.1%減、電気機器が 5.4%減と続いている。また、ニット衣類は第 3 四半期以降、欧州向けが減速したことで 0.9%減、ニットを除く衣類も 0.2%増にとどまった。

地域・国別にみると、輸出が最も減少したのはアフリカ地域でエジプトが 12.5%減と低迷した。次いでアジア地域で中国が 3.6%減となった他、15 年好調であった韓国は 8.8%減となった。一方、日本向けは 5.8%増であった。また、ロシアが 51.7%減と 2015 年 12 月から続いた制裁の影響が大きくみられる。同国は 16 年 8 月以降トルコとの関係改善に乗り出し制裁を段階的に解除している。なお、15 年金の輸出で急伸したスイスは、52.8%減と最も落ち込んでいる。

他方、増加額が大きかったのは EU で、英国、イタリアなどを中心に全体で 6.8%増と好調であった。次いで中近東が続き、イランが特惠関税の適用や制裁解除後の需要

表 3 トルコの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2015 年		2016 年			2015 年		2016 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
EU28	63,998	68,345	48.0	6.8	EU28	78,681	77,501	39.0	△1.5
ドイツ	13,417	13,999	9.8	4.3	ドイツ	21,352	21,475	10.8	0.6
英国	10,556	11,686	8.2	10.7	イタリア	10,639	10,218	5.1	△4.0
イタリア	6,887	7,581	5.3	10.1	フランス	7,598	7,365	3.7	△3.1
フランス	5,845	6,023	4.2	3.0	スペイン	5,589	5,679	2.9	1.6
スペイン	4,742	4,989	3.5	5.2	英国	5,541	5,321	2.7	△4.0
スイス	5,675	2,676	1.9	△52.8	ポーランド	2,978	3,244	1.6	9.0
ロシア	3,588	1,733	1.2	△51.7	ロシア	20,402	15,162	7.6	△25.7
中近東	31,086	31,305	22.0	0.7	ウクライナ	3,448	2,548	1.3	△26.1
イラク	8,550	7,637	5.4	△10.7	中近東	13,575	13,761	6.9	1.4
アラブ首長国連邦	4,681	5,407	3.8	15.5	イラン	6,096	4,700	2.4	△22.9
イラン	3,664	4,966	3.5	35.6	アラブ首長国連邦	2,009	3,701	1.9	84.3
サウジアラビア	3,473	3,172	2.2	△8.7	米州	16,771	16,990	8.6	1.3
米州	9,225	9,345	6.6	1.3	米州	11,141	10,868	5.5	△2.5
米国	6,396	6,623	4.6	3.6	アフリカ	5,099	5,356	2.7	5.0
アフリカ	12,449	11,407	8.0	△8.4	アジア	53,339	54,256	27.3	1.7
エジプト	3,125	2,733	1.9	△12.5	中国	24,873	25,441	12.8	2.3
アジア	10,307	9,684	6.8	△6.0	韓国	7,057	6,384	3.2	△9.5
中国	2,415	2,328	1.6	△3.6	インド	5,614	5,757	2.9	2.6
日本	335	354	0.2	5.8	日本	3,140	3,944	2.0	25.6
合計(その他含む)	143,839	142,533	100.0	△0.9	合計(その他含む)	207,234	198,617	100.0	△4.2

[注] 2016 年は暫定値。  
[出所] トルコ統計機構(TUIK)

で 35.6%増、アラブ首長国連邦(UAE)が 15.5%増と好調であったが、イラクが 10.7%減、サウジアラビアが 8.7%減と低迷し、全体としては 0.7%増にとどまった。

減少額が大きかった輸出品目を見ると、鉱物性燃料が、原油安を反映し、前年比 28.2%減と最も落ち込んだ。しかし、下半期に原油価格に上昇傾向が見られたことと冬期に需要が増加するという季節要因もあり、第 4 四半期には減少幅が縮小している。次いで、鉄鋼も 14.9%減と大きく減少している。一方、金を中心とした貴金属類は 72.2%増と大きく増加した。特にエルドアン大統領が、通貨リラ防衛のため、外貨をリラか金に交換するよう呼びかけたことで、12 月単月で 4.3 倍に急増した。また、電気機器(14.6%増)、機械機器(6.7%増)も好調であった。なお、

自動車・同部品は、国内自動車販売が減速したこともあり、1.7%増にとどまった。

輸入を地域・国別で見ると、最も輸入額が減少したのはロシアで、エネルギー価格下落の影響で 25.7%減となった。次いで、EU が 1.5%減と続く。EU 諸国ではイタリア(4.0%減)、フランス(3.1%減)、英国(4.0%減)の減少額が大きい。一方、アジアからは 1.7%増加し、特に、日本が 25.6%増、中国が 2.3%増と好調であった。中近東は全体としては 1.4%増に留まるが、UAE は 84.3%増、イランは 22.9%減と国による差が大きい。また、15 年 8 月に FTA が発効したマレーシアが 49.1%増と好調であった。一方で、FTA 発効後輸入が急拡大した韓国は減速し、9.5%減となった。なお、2016 年 11 月にモルドバとの FTA が発効したことで、17 年 6 月時点で、20 カ国・地域と FTA を発効させている。16 年の貿易総額に占める FTA 締結国の割合は、輸出が 60.3%、輸入が 47.4%であった。

### ■ 対内直接投資は約半減

トルコ中央銀行発表の国際収支統計によると、2016 年の対内直接投資(流入株主資本のみを計上、フロー)は前年比 43.0%減の 68 億 8,800 万ドルであった。地域別では例年通り欧州が最大で、EU が全体の 54.8%を占めるが、金額は 46.1%減と落ち込んだ。15 年に銀行部門への大型投資があったスペインが 82.3%減と最も縮小、次いでルクセンブルク(75.3%減)、ベルギー(97.0%減)、オランダ(19.3%減)も減少した。一方で、英国からが 62.4%増、オーストリアが 4.5 倍、ドイツが 21.1%増と好調であった。次いで米州が米国からの投資減を反映して、71.9%減、また、アジアが 34.0%減と縮小した。これは、中国が 33.5%減と縮小したためである。なお、日本は 4.8%増の 3 億 2,900 万ドルと増加し、同地域で最大の投資国となった。一方で制裁を科せられたロシアからは 65.3%減と急落した。紛争が続き、不安定な国が多い中近東からは全体で 4.9%減であったが、カタールが金融セクターなどで 7.1%の増加を見せている。2016 年にトルコに投資を行った外資系企業は前年比 0.6%減の 5,567 社で、近年シリアを筆頭にイラン、イラク企業の進出が顕著に見られる。同年末にトルコで操業す

る外資系企業の総数は 5 万 3,180 社、うち 40.8%が EU 企業、33.3%が中近東企業であった。

2016 年の対内直接投資を業種別にみると、製造業、金融・保険が各々 25%を占めたが、ともに 2 ケタ減であった。製造業ではシーメンスが路面電車製造工場を建設中で、18 年稼働予定である。17 年 1 月にはブラジルの BRF がカタール投資庁(QIA)とともに養鶏企業バンビットの株式 79.48%を買収する意向を表明している。金融ではカタール商業銀行がアルタナティブ銀行の株式 25%を買収。16 年の投資も例年通り企業の合併・買収(M&A)が多く、この他に韓国の CJ-CGV によるマルス・エンターテイメント買収、バーレーンのベンチャー・キャピタル銀行とカタールのアル・スライヤ・グループによるカフェ・チェーン、マドの株式 40%買収などがあった。なお、伸び率では医療関連、建設が好調であった。

対外直接投資は前年比 40.4%減の 31 億 2,200 万ドルであった。地域別では EU(46.7%減)、米州(37.6%減)の減少額が大きい。EU では例年通り、オランダ、英国への投資額が大きい。両国を含め主要国は軒並み 2 ケタ減となっている。他方、北アフリカはトスヤル鉄鋼のアルジェリア進出(2,600 万ドル)、エジプト(2,300 万ドル)への投資が伸びている。また、日本へは初めてとなる 400 万ドルの純増が報告されている。

### ■ 日本からの輸出は建機、自動車の部分品が伸びる

日本の財務省「貿易統計(通関ベース)」をドル換算したもので日本とトルコとの貿易をみると、2016 年は輸出が 28 億 4,961 万ドル(前年比 31.8%増)、輸入が 5 億 6,320 万

表 4 トルコの国・地域別対内・対外直接投資<国際収支ベース、グロス、フロー>

	対内直接投資					対外直接投資			
	2015 年		2016 年			2015 年		2016 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
EU28	7,014	3,778	54.8	△46.1	EU28	2,869	1,528	48.9	△46.7
オランダ	1,184	955	13.9	△19.3	オランダ	1,567	816	26.1	△47.9
英国	585	950	13.8	62.4	英国	631	336	10.8	△46.8
ドイツ	355	430	6.2	21.1	ドイツ	250	125	4.0	△50.0
スペイン	2,305	409	5.9	△82.3	ルーマニア	26	54	1.7	107.7
オーストリア	80	361	5.2	351.3	ルクセンブルク	131	50	1.6	△61.8
ルクセンブルク	1,252	309	4.5	△75.3	イタリア	22	31	1.0	40.9
フランス	164	88	1.3	△46.3	フランス	20	30	1.0	50.0
EFTA	208	354	5.1	70.2	EFTA	154	72	2.3	△53.2
ロシア	747	259	3.8	△65.3	ロシア	62	10	0.3	△83.9
中近東	1,317	1,252	18.2	△4.9	中近東	429	325	10.4	△24.2
アゼルバイジャン	839	652	9.5	△22.3	アゼルバイジャン	276	227	7.3	△17.8
カタール	350	375	5.4	7.1	イラク	27	40	1.3	48.1
レバノン	0	152	2.2	純増	アラブ首長国連邦	28	37	1.2	32.1
米州	1,630	458	6.6	△71.9	米州	1,360	849	27.2	△37.6
米国	1,619	390	5.7	△75.9	米国	1,343	836	26.8	△37.8
アジア	1,147	757	11.0	△34.0	アジア	153	107	3.4	△30.1
日本	314	329	4.8	4.8	中国	20	34	1.1	70.0
中国	451	300	4.4	△33.5	カザフスタン	10	31	1.0	210.0
韓国	39	36	0.5	△7.7	韓国	35	17	0.5	△51.4
合計(その他含む)	12,074	6,888	100.0	△43.0	合計(その他含む)	5,241	3,122	100.0	△40.4

[注] 2016 年は暫定値、株主資本のみ計上(引き揚げを含まない)。

[出所] トルコ中央銀行

ドル(10.3%減)であった。貿易黒字は、2015年より7億5,302億ドル拡大し、22億8,640万ドルとなった。

輸出では、全体の約4割を占める一般機械が、原動機、気体圧縮機・気体ポンプ、建設機械などの好調もあり45.2%増と伸び、輸出を牽引した。次いで、電気機器(66.5%増)、輸送機器(31.4%増)と続く。輸送機器では、トルコの自動車生産の好調(前年比9.4%増の148万5,927台)もあり、ギアボックス(2.5倍)、ブレーキ及びサーボブレーキ並びにこれらの部分品(9.4倍)など自動車の部分品が78.1%増と好調であった。乗用車では15年に倍増したディーゼル車(1500cc超2500cc以下)が8.1%増、小型ガソリン車(1000cc超1500cc以下)が45.1%増であった。他方、大型ガソリン車(1500cc超3000cc以下)は31.2%減と落ち込んだため、乗用車全体では2.7%減となった。一方で鉄鋼は、主力の合金鋼のフラットロール製品(9.7%減)が伸びず、3.8%減となった。

輸入では、総輸入額の32.6%を占める食料品の輸入減少額が最も大きかった。主力のまぐろ(冷凍フィレ)、紙巻たばこ、トマト調製品、オリーブ油、簡素果実などが軒並み2ケタ減となり、食料品全体で23.5%減となった。ただトルコに日系の製造工場があるパスタは46.4%増と好調が続いている。なお、輸入額が大きい衣類は、ニット衣類が0.7%減であったが、非ニット衣類が5.8%増と伸長し、衣類・同付属品全体で3.9%増であった。また、輸送機器はルノーを中心に乗用車(ガソリン車1000cc超～1500cc以下)が81.4%増と好調であった。

## ■日本からの投資は引き続き好調

日本の国際収支統計でトルコ向け直接投資(ネット、フロー)をみると、2016年は前年とほぼ同水準の522億円であった。業種別では、化学・医薬、食料品がそれぞれ約3割を占める。個別の案件では、2016年もトヨタ自動車の増資に加えて、4月には三菱電機が18年の生産開始を目処にルームエアコンを開発・生産する三菱電機エア・コンディショニング・システムズ・マニファクチャリング・トルコを設立、6月にはDICの米国子会社サンケミカルがパッケージ用リキッドインキの工場を建設、10月にはIHIがダールガラン・マキナと合弁で圧縮機の工場を建設、11月にはミツバがワイパー関連製品生産でタクラス・カウチュクと合弁会社を設立するなど、製造業への進出が見られた。買収案件では、6月、日立国際電気が中継車メーカーBCSテクノロジーを買収、8月、タキイ種苗が育種会社のリト・トフムジュルク買収、10月、関西ペイントがポリサン・ボヤ・サナイの株式50%を取得することを発表、11月、三井物産がハイテックや医療分野への投資を手掛けるイベントラムに出資することを、味の素も食品会社オルジェン食品の全株式を取得し子会社化することを発表した。17年4月には日立製作所は医療機器販売・サービス会社のクルト&クルト社を買収、連結子会社化した。この他、16年に蝶理、ヤンマーが駐在員事務所を、フジテレビが支局を開設している。2017年に入ってから、商船三井がトルコを重点戦略国と位置づけトルコ代表を設置し、5月には電通がデジタル広告関連のセスリハーフラー社の全株式を取得することで合意したと発表するなどしているが、進出数は全体的には鈍化している。

表5 日本の対トルコ主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2015年		2016年		2015年		2016年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
一般機械	818	1,187	41.7	45.2	240	184	32.6	△23.5	
建設用・鉱山用機械	257	331	11.6	28.7	32	48	8.4	46.4	
メカニカルシヨベル、エキスカベーター及びシヨベルローダー(上部構造が360度回転するもの)	167	253	8.9	51.4	51	37	6.6	△27.2	
原動機	114	211	7.4	85.8	73	27	4.8	△63.2	
ポンプ・遠心分離機	57	138	4.8	141.7	14	12	2.1	△17.0	
金属加工機械	101	116	4.1	15.1	33	25	4.5	△24.0	
繊維機械	70	89	3.1	27.4	157	141	25.1	△10.0	
輸送機器	426	560	19.6	31.4	105	109	19.4	3.9	
自動車	211	200	7.0	△5.5	54	67	11.8	22.3	
乗用車	171	166	5.8	△2.7	11	20	3.6	80.8	
ディーゼル車(1500cc超2500cc以下)	94	102	3.6	8.1	11	20	3.6	81.4	
ガソリン車(1000cc超1500cc以下)	20	29	1.0	45.1	25	28	5.0	12.3	
自動車の部分品	188	335	11.8	78.1	18	16	2.9	△6.8	
ギアボックス	74	183	6.4	146.9	原料別製品	64	58	10.2	△9.7
原料別製品	380	402	14.1	5.6	38	37	6.6	△1.1	
鉄鋼	212	204	7.2	△3.8	48	40	7.0	△17.0	
合金鋼のフラットロール製品	128	116	4.1	△9.7	天然ほう酸塩及びその精鉱	9	6	1.0	△34.5
金属製品	61	98	3.4	62.2	一般機械	30	38	6.7	25.5
電気機器	218	362	12.7	66.5	エンジン部品	8	18	3.2	115.4
化学製品	149	152	5.3	1.7	化学製品	24	28	5.0	14.9
プラスチック	61	69	2.4	12.0	医薬品	12	16	2.9	34.3
合計(その他含む)	2,161	2,850	100.0	31.8	合計(その他含む)	628	563	100.0	△10.3

〔出所〕財務省 貿易統計(通関ベース)から作成